

事例6 第1学年 内容項目：C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

- ・ALTを交えて考えを広げたり、深めたりする話し合い①
- ・映像の活用
- ・自分を見つめる書く活動
- ・ALTを交えて考えを広げたり、深めたりする話し合い②
- ・伝統文化を継承する意義について考えを深める話し合い

- 1 主題名 世界の中での日本文化のすばらしさ
- 2 ねらい 日本の伝統文化の良さについて、様々な立場の人の考えから多面的に捉える学習を通して、日本の伝統文化に改めて目を向け、それらを伝えていこうとする態度を育てる。
教材名 「日本の心と技」(出典 中学生の道徳「明日への扉1年」学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。」に関するものである。

「伝統の継承」とは、我が国の長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、慣習、芸術などを大切にし、それらを次代に引き継いでいくことを意味する。「新しい文化の創造」とは、これまで培われた伝統や文化を踏まえ、更に発展させ、時には他の文化も取り入れながら個性豊かな新しい文化を生み出すことを意味する。そのためには、古いものを改めていくことも大切であるが、先人の残した有形無形の文化遺産の中に優れたものを見だし、それを生み出した精神に学び、継承し発展させていくことが必要である。

我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それを尊重し、継承・発展させる態度を育成するとともに、それらを育んできた我が国への親しみや愛着の情を深め、そこにしっかりと根を下ろし、他国と日本との関わりについて考え、日本人としての自覚をもって、新しい文化の創造と社会の発展に貢献し得る能力や態度が養われる必要がある。

指導に当たっては、まず、我が国の発展に尽くし優れた伝統と文化を育んできた先人たちの努力とその精神をたどり、そのよさを理解して継承するとともに、新たな文化を創造してその発展に寄与していく責務があることを自覚し、国家及び社会の形成者として、そのことに努めていこうとする意欲と態度を育てる必要がある。さらに、「国際理解、国際貢献」との関わりをも踏まえて、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚に関する内容や、国際社会との関わりについて考えを深めることも求められる。2020年東京オリンピックを控え、日本を海外に発信することで、日本を見つめ直す良い機会でもある。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は小学6年生の修学旅行で日光を訪れ、日本の歴史的建造物に触れている。また、1学期には、外国語科の授業で、外国の食べ物を調べる課題に取り組み、世界に目を向ける学習を行った。その中で、日本でも親しみのある外国の食文化と和食の共通点や相違点なども学び、「日本人」として改めて日本に目を向ける機会となった。このような学習をしてきた生徒が、日本の伝統文化やそのよさについてどのような意識をもっているのかを把握するため、以下の調査を実施した。

1 日本の伝統や文化にはどのようなものがありますか。

神輿 太鼓 アニメ マンガ 和食 ソーラン節 和服 能 武道 狂言 落語 歌舞伎
花火 かるた

2 今までにどんな日本の伝統や文化に触れたことがありますか。

空手 剣道 神輿 昔遊び 豆まき お囃子

3 日本のいいところはどんなところですか。

- ・清潔で安全
- ・教育をしっかりと受けられる
- ・治安が良く平和
- ・物の精度が高い
- ・自然が多い
- ・四季がはっきりしている
- ・ルールを守る
- ・落とした財布が返ってくる
- ・相手のことを考えて行動する
- ・優しい人が多い
- ・譲り合う心

4 2020年オリンピックが東京（日本）で開催されることについてどう思いますか。

- ・ずっと見てきた五輪がこの国で行われるのがすごくうれしい。・楽しみ。
- ・世界の人々との交流が最も盛んになる。・日本の技術を世界にアピールできるチャンス。
- ・見に行きたい。・にぎやかになる。・外国の人にもっと日本の魅力を知ってほしい。
- ・税金がかかる。・事件が起きないようにしてほしい。・準備が大変そう。

5 2020年東京オリンピックを通して、世界にどんなことをアピールできると思いますか。

- ・安全さ ・治安の良さ ・親切さ ・交通の便利さ ・和食 ・おもてなしの心
- ・古くからの文化 ・昔からの伝統や文化を今でも受け継いでいること

【調査日 令和元年9月30日 回答数 32名】

調査の結果から、2020年に日本で開催されるオリンピックを楽しみにしている生徒が多くいる一方で、事件が起きないかを心配する生徒もいる。しかし、それも自分の国を大切に思っているからこそ心配ではないかと考える。さらに、全ての生徒が日本のよさについて記述しており、自分の国に誇りをもっていることが分かった。しかし、実際に日本の伝統や文化に触れたり体験したりする機会はあまりなく、本時は、伝統や文化を継承する意義について考えさせたい

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、日本人や外国人が、日本の伝統と文化について関心をもち、それを継承し広めていこうとする姿を通して、ねらいに迫るものである。

また、本教材は、独立した四つの話から構成されるが、本時では、そのうち外国人が日本の伝統文化を継承する話と日本人が日本の伝統文化を継承する話を取り上げる。また、教材を一つずつ生徒に提示する方が、自国の伝統文化を継承する意義について生徒の考えを深めることができると判断し、教材を一つずつ提示する。

なお、ドナルド・キーン氏の話については、後日、紹介をする。

教材の特質や本学級の生徒の実態を受け、主に次の話を基に話し合うことにする。

①狂言と琵琶に魅了された二人の外国人の話

外国人たちを惹きつける日本文化の魅力とは何か、また、日本文化をなぜ母国を始め外国に広めたいのかについて考えさせる。

②落語を世界に広める日本人の話

日本人として、日本の伝統文化を継承することの意義について考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 事前に行った意識調査の結果を見ながら、日本について知っていることや日本のよさを確認する。 ・日本の伝統や文化と言えど何か。 ・日本の伝統や文化を何かやっているか。(やったことがあるか)	<ul style="list-style-type: none"> ・和食や和服。 ・歌舞伎もそう。 ・アニメも人気がある。 ・空手を習っている。 ・夏祭りで神輿を担いだことがある。 ・ALT は自分たちよりも日本に関心が高いな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古き良き伝統と、近代のアニメや技術の高さなど、幅広く捉えさせる。 ・ALT が日本の伝統や文化について話すことで、日本に生まれた生徒よりもALTの方が日本に関心が高いことに気付かせる。 ・課題を提示することで生徒に問題意識をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 課題 昔の人たちが残してきた日本の伝統や文化とどう関わるか。 </div>			
展開	2 教材「日本人の心と技」を読み、話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や条件・状況を確認する。

<p>・「狂言の素晴らしさを伝えたい」「琵琶と一体となる幸せ」の範読を聞く。</p> <p>(1)外国人たちを惹きつける日本文化の魅力とは何でしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の深い昔の建物がたくさんある。 ・日本文化は静かで風情がある。 ・他国と違った芸術性。 ・大人を魅了するアニメや映像技術の高さ。 ・日本人のマナーのよさ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外から高く評価される日本の伝統文化を広め、継承する意義について考えさせる。 ・ALTにも問いかけ、答えてもらう。
--	--	---

ALTを交えて考えを広げたり、深めたりする話し合い①

T：日本の伝統文化の魅力って何だと思いますか。

S：昔から受け継がれているところ。

S：日本独自の文化があるところ。

T：日本独自の文化って何でしょうね。

S：・・・

T：独自ってことは、外国とは違うってことですね。

S：日本の文化は上品だと思う。

S：外国は明るいイメージがあるけど、日本は落ち着いた感じだと思う。

S：迫力があると思う。

T：ケビン先生はどう思いますか。

A：日本の文化は外国人にとってユニークだと思います。日本の文化は他の国にはない繊細さがあります。

<p>(2)日本文化をなぜ外国に広めたいのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいから。 ・自国にはない雰囲気があるから。 ・自分が魅了された文化を知ってほしいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が日本の伝統を広めていることに気付く。 ・これからの学びにおいて日本について学ぶ大切さにも触れる。 ・ALTにも問いかけ、答えてもらう。
---------------------------------	--	--

ALTを交えて考えを広げたり、深めたりする話し合い②

T：この人たちは、自分で体験して自己満足で終わっていないのですよね。体験した日本の伝統文化を自分の国に帰って講演したり、他の国に行って日本の文化を伝えたりしています。じゃあ、外国の人たちは、どうして日本文化を外国に広めたいのだと思いますか。

S：自分が覚えた感動を他の人にも伝えたいから。

T：でも、別に自分が覚えた感動を伝えたいなら、落語や琵琶の鑑賞に連れていっていただけでいいのではないですか。

S：自分で実際にやってみることで、奥深さをより伝えられると思ったから。

T：日本人がやっているものを見せた方がいいのではないですか。

S：この人たちは1回の体験だけをしているわけではなくて、日本で修業をしているから、心は日本人そのものだと思う。

生徒の考えを更に掘り下げられるように発問を続ける

S : 日本文化を伝えるっていう自信があるんだと思う。

A : 僕は日本にいる外国人に神社や寺の案内をすることがあります。英語で案内や説明もできますからね。それに、日本に興味をもつ外国人の気持ちが分かるから、日本のいいところを自分で伝えられるのはうれしいですよ。

T : 外国にいる人たちにも伝えたいと思いますか。

A : もちろんです。1度でも日本に来て欲しいし、日本のことを伝えたいと思います。

(補助発問)

・日本人の私たちが日本の伝統や文化をあまり経験していないのに、海外の人が継承していることをどう思うか。

・日本文化にもっと目を向けなければいけない。
・なかなか機会に恵まれな
いが機会があればやりたい。
・私たちは外国の文化を継承することもできていない。

・生徒の意識調査を再提示する。
・日本人としての自分を客観的に捉えさせるために、日本の文化に魅了された外国人の動画を流す。

映像の活用

T : 今から日本の文化に魅了された外国人たちの短い動画を流します。

動画「認め合うことが、チカラになる」(公益社団法人ACジャパン CM)

T : どう思いましたか。

S : 日本の文化にこんなに興味をもってくれるのは、日本人として誇らしいと思った。

S : 日本の文化を珍しいと思うだけでなく、リスペクトしてくれていることに驚いた。

・「落語は親善大使」の範読を聞く。
(3)日本人が日本の伝統文化を継承することの意義とは何でしょうか。(中心発問)

・長い歴史を途絶えさせてはいけません。
・日本人でも日本のことを知らない人が多い。
・外国人の方が日本のことを知っている。

☆大島さんの思いを多面的に捉えながら、伝統文化を継承し、世界に広めていく意義について考えている。
・ワークシートに記入する。

伝統文化を継承する意義について考えを深める話し合い

T : 日本人が日本の伝統文化を継承することの意義とは何でしょうか。

S : 日本人が継承しないと、本当の意味での日本のよさが薄れてしまうと思うから、日本人が継承することが大事だと思う。

T : 外国の人が継承することと、日本の人が継承することでは何が違うのでしょうか。

S : 伝統を途切れさせないという意味では、どちらも同じだと思う。でも、日本人として自分の国をもっと知ることは大切だし、昔の人たちが受け継いできた思いを引き継いでいくことも大切だと思う。

T : 日本人としての自覚や誇りはありますか。

S : 私は日本人だけど、日本文化を受け継いでいないし、国語も苦手です。日本の文化を受け継ぐ日本の心が足りないかも。

T : 学校の授業では書写がありますが、それは日本の文化を受け継いでいることにならないのですか。

S : 確かに、言われてみればそうだ。

S：動画の外国人たちが認めている日本の文化を、私たちがもっと誇りをもって取り組んでいくことで、心から私は日本人だと思えるようになるのかも。

A：僕は日本に興味をもってもらうために日本のことを外国人に伝えますが、自分の国のことも自信をもって伝えていきますよ。僕はフィリピン人であることを誇りに思っていますから。

3 自分を見つめる。

- 昔の人たちが残してきた日本の伝統や文化と自分はどう関わるのかについて考える。

・じっくりと考えさせるために書く活動を取り入れる。

☆自分の体験と結び付けて、日本の伝統や文化を継承したり、広めたりすることについて考えている。

・数名の生徒を意図的に指名し、書いた内容を発表させることによって、考えの共有と他者理解を深められるようにする。

自分を見つめる書く活動

気がないうちに自分が身近なところで伝統や文化に触れていたことを気付いた。当たり前だと思っていたことが日本の大切なことだと思いながら、日本人としてこの伝統が途切れないようにしたい。

自分は武道を通して日本の伝統や文化に角虫れてきたので、昔の人が代々残してきた日本の伝統や文化を、後世に伝える架け木齋になれはいいと思った。

伝統芸能は馴染みがないけど、テレビと歌舞伎のライブをやっているのをニュースで見たりすることがある。若い人たちが興味をもつ未来日本の伝統を後世に伝えようとして頑張っているのを感じた。

終末

4 教師の説話を聞く。

・東京五輪の話と関連させ、これからの社会や生活の中で、日本に改めて目を向け、興味や関心を高める。

来年の東京五輪をきっかけに日本に興味をもつ外国人は増えると予想されます。みんなは日本人として、外国の人たちを受け入れるとき、日本の何を伝えますか。これからはみんなが伝統や文化を創り、受け継ぐ番です。自分たちの身近にある伝統的な行事や文化をどのように受け継いでいくのか、考えてみてください。

本時の板書

第19回 道徳 課題 昔の人たちが残してきた 伝統や文化とどう関わるか

日本人の心と技

なぜ広めようとする？
自分が知った感動を知りたい。
外国(日本)の文化を知らない人に伝えるチャンス。
日本の独特な文化や伝統を世界に広めたい。

外国人 魅了された

日本文化

魅力 落ち着いた雰囲気 歴史がある 他国と違う 独特

日本人 もっと自分の国を知って文化や伝統に目を向けなければ...
歴史ある伝統や文化を受け継いでいかないとなくなってしまう。
文化を継承することの意義
昔の人たちが受け継いできた思いを引き継ぐ。
日本人として、もと日本の伝統や文化に誇りをもつ。

今の私たちになじみのあるものにする工夫がある

5 他の教育活動との関連

英語科	教材名「Origami」 身近な折り紙を通して、日本文化のよさを外国の人々に伝えることができるようにする。
道徳科	教材名「真の国際人 嘉納治五郎」
事前指導	・意識調査の実施 ・東京五輪誘致動画の視聴
事後指導	・関連する本を紹介する。【朝読書】 ・ALT への日本紹介。【外国語】 ・教室に感想等を掲示し、振り返りができるようにする。 ・教科書の最後に載っている日本国籍を取得したドナルド・キーン氏の話を紹介する。
家庭との連携	・学級通信に生徒の感想を紹介し、家庭での話題にしてもらう。 ・冬季休業の課題として、生徒のワークシートを保護者に読んでもらい、一言コメントを書いてもらう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・日本の伝統や文化のよさを多面的に捉え、それを継承していく意義について考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・日本の伝統や文化を継承したり、広めたりすることについて、自分との関わりで捉え考えている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習について

本時では、道徳的価値について多面的・多角的に考えさせるために、3～4人の小グループでの話し合いを活用した。全員が自分の考えを発言し、話し合うには、3～4人の小グループは適切

であると感じている。発問2で、ある生徒が「日本独自の文化」と発言したことに対して、「日本独自ってどういうことか」と問い返したところ、何も答えられなくなってしまった。他の生徒からの意見もなかなか出なかったため、「海外の文化とは違うってことか」と問い返しを補ったところ、ようやく生徒が発言できた。このことから、明確な発問はもちろんのこと、発問に対する生徒の発言予想と明確な問い返しを事前に用意しておくことの必要性を改めて感じた。中心発問では、外国人が継承する視点と日本人が継承する視点から、また日本人としての自覚や誇りという視点から考えを深めることができた。

②自分との関わりで考える学習について

事前に行った意識調査では、日本の伝統や文化に触れたことがないと感じていた生徒が複数いたが、意外と身近なところで日本の文化や伝統と関わっていたことに授業を通して気付くことができていた。中心発問後の自分を見つめる活動では、書写やかるたが日本の伝統や文化と自覚していなかった生徒たちが、これらも日本独自のものであったことに気付き、自分たちが後世に引き継ぐことについて考えることができた。また、生徒がワークシートに書くことで、自分の考えを可視化させ、整理することができた。

(2) 視点に基づく本時の評価

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆大島さんの思いを多面的に捉えながら、伝統文化を継承し、世界に広めていく意義について考えている。

小グループでの話し合いの前に、ワークシートに自分の考えをまとめる時間を確保したので、全員が自分の考えを述べることができた。しかし、自分の考えを1回ずつ発表して終わってしまい、自分たちの考えを深めるまでには至らないグループもあった。発言に対して感想を言う、質問をする、類似点を探すなど、話し合いの仕方を事前に示すことで、小グループでの話し合いを深めることができるのではないだろうか。全体の話し合いでは、教師が問い返しをすることで、話し合いを深めることができたと考えられる。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆自分の体験と結び付けて、日本の伝統や文化を継承したり、広めたりすることについて考えている。

歌舞伎や落語といった、触れる機会の少ないものにばかり焦点を当てていたが、話し合いを通して身近なところでの日本の伝統や文化についてよく考えていた。本時の課題である「昔の人たちが残してきた日本の伝統や文化とどう関わるか」について、自分との関わりについてワークシートに書くことができた。

(3) その他

ALTと協力し、日本人の教師にはできない外国人目線での話が有効だった。また、ALT自身も本時を終えて、日本の伝統や文化についてもっと知りたいという気持ちが強くなったと話していた。生徒が自国に改めて目を向け、ALTをはじめとする多くの外国人に日本のよさを伝える活動につなげていくきっかけとなることを望んでいる。中学2年の東京校外学習、中学3年の京都奈良修学旅行に向けて、他教科と連携しながら自分の国に誇りをもち、自信をもって日本を発信できるように指導をしていきたい。

道徳の授業を経験したことのないALTと協力授業を行うに当たって、事前準備は思っていた以上に大変であった。授業前にALTとの十分な打ち合わせの時間がとれず、またALTの思いを理解するための生徒の英語力が十分でなかったため、授業においては、通訳をはさみながら説明することで時間がかかりすぎてしまった。ALTとの協力授業では、事前にALTが話す内容を十分教師が理解する必要がある。

本時では取り扱わなかった、日本国籍を取得したドナルド・キーン氏の話については、後日朝読書の時間に紹介し、日本に魅了された外国人について本時の学習を振り返りながら考えさせる予定である。今後は、1時間の授業中で教科書の内容に触れられる授業の流れを考えた指導ができるよう、教材分析と課題提示、生徒への発問の吟味を行い、より生徒が深く考えることのできる授業ができるようにしていく。